

010

当事者と学ぶ アルコール依存症と回復

講座内容

アルコール依存症は、飲酒(量・タイミング・飲む状況)を自分でコントロールできなくなった状態をいいます。長い間、大量にお酒を飲み続けることによって進行し、次第にお酒なしではいられなくなる病気です。アルコール依存症の患者は80万人以上、その予備軍も含めると約440万人にもなると推定されています。この講座は、アルコール依存症とアルコール依存症からの回復について、当事者でもある回復施設の職員とともに学ぶ講座です。意外に身近なアルコール依存症と回復について、一緒に学んでみませんか。

期 間	12月20日	受講料	2,000円
曜 日	土曜日	定 員	50名 ※最少催行人数 8名
時 間	10:00~11:30	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	1回	持ち物	ノート 筆記用具
教 材	講師が配布資料を用意します。		
備 考	●この講座は12月12日(金)までに中止の連絡が無ければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	12月20日(土)	よくわかる アルコール依存症と回復 意外に身近にあるアルコール依存症について、またアルコール依存症からの回復について、精神看護学の教員、当事者でもある回復施設の職員と一緒に学んでいきましょう。 1 アルコール依存症とはなにか 2 アルコール依存症からの回復 3 当事者の体験談

講師紹介

コーディネーター

谷島 和美(やじま かずみ)

本学看護学部 精神看護学領域 助教

日本看護協会認定 精神看護専門看護師/公認心理師。2022年より本学看護学部助教。

大学では精神看護学を担当するとともに、がん患者さんの心のケア、看護師のメンタルヘルス支援に関する研究を行っている。

コーディネーター

馬場 薫(ばば かおる)

本学看護学部 精神看護学領域 講師

精神科病院での実務を経て現職。大学では、精神看護学科目やを担当している。また、看護師が働きやすく、働きがいを感じることができる職場づくりに関する研究を行っている。

美濃 陽介(みの ようすけ)

本学看護学部 精神看護学領域 准教授

2025年より現職。大学では精神看護学科目を担当している。また、職業性ストレス、ワーク・モチベーションをテーマに労働者のメンタルヘルスに関する研究を行っている。

山田 勝昭(やまだ まさあき)

特定非営利活動法人 市民の会 寿アルク 統括施設長(アルコール依存症本人)

高校卒業後就労し、父親から一杯飲むと疲れが取れるからと言われ、毎晩晩酌するようになりました。徐々に飲み方が変わり、酒量が増え行動にも変化が。駐車してある車にぶつけ、その場所さえ覚えておらず、後始末はいつも親でした。38才で初めて離脱症状、幻聴、幻視が出て、初めて精神病院に入院。その後、十数回の入退院を繰り返し、最後に全てを失い寿町にきました。回復施設のアルクは初めてでした。アルク、AAのプログラムで、第二の人生を始めて29年目に入りました。